

◎所得に対する租税に関する二重課税の回避及び脱税の防止のための日本  
国とタイとの間の条約

(略称) タイとの租税(所得)条約

平成二年四月七日 東京で署名  
平成二年五月二十五日 国会承認  
平成二年七月二十七日 批准の閣議決定  
平成二年八月一日 バンコクで批准書交換  
平成二年八月十三日 公布及び告示  
(条約第六号及び外務省告示第三八八号)

平成二年八月三十一日 効力発生

目次	ページ
第一 文	一五六七
第一条 人的範囲	一五六七
第二 適用される租税	一五六七
第三 定義	一五六八
第四 条 一方の締約国の居住者	一五七〇
第五 条 恒久的施設	一五七一
第六 条 不動産に係る所得	一五七四

第七条 企業又は恒久的施設の利得	二五七五
第八条 航空機に係る所得	二五七六
第九条 特殊関係企業に係る利得	二五七七
第十一条 配当	二五七八
第十二条 利子	二五八一
第十三条 使用料	二五八三
第十四条 讓渡収益	二五八五
第十五条 人的役務の提供に対する報酬	二五八六
第十六条 役員の報酬	二五八六
第十七条 芸能人等の所得	二五八七
第十八条 公務遂行に係る報酬	二五八八
第十九条 教授、教員等の所得	二五八九
第二十条 学生、事業修習者等への送金等	二五九〇
第二十一条 その他の所得	二五九一
第二十二条 二重課税の排除方法	二五九一
第二十三条 内国民待遇	二五九四
第二十四条 不服申立て及び両国当局間の協議	二五九五
第二十五条 情報の交換	二五九六
第二十六条 外交官又は領事館の特権との関係	二五九七
第二十七条 批准、効力発生及び適用の開始時期	二五九七
第二十八条 条約の終了及び適用の終了時期	二五九八
第二十九条 末文	二五九九
第三十条 議定書	二六〇〇

前文

所得に対する租税に関する二重課税の回避及び脱税の防止  
止のための日本国とタイとの間の条約

CONVENTION  
BETWEEN JAPAN AND THAILAND  
FOR THE AVOIDANCE OF DOUBLE TAXATION  
AND THE PREVENTION OF FISCAL EVASION  
WITH RESPECT TO TAXES ON INCOME

日本国政府及びタイ政府は、  
所得に対する租税に関する二重課税を回避し及び脱税を防止  
するための新たな条約を締結する所を希望して、  
次のとおり協定した。

第一条

人的範囲

この条約は、一方又は双方の締約国の居住者やある者に適用

する。

第二条

適用され  
る  
租税

この条約の対象である租税は、次のものとする。

- (a) 日本国においては、
  - (i) 所得税
  - (ii) 法人税
- (b) タイにおいては、
  - (i) 所得税

タイとの租税（所得）条約

This Convention shall apply to persons who  
are residents of one or both of the Contracting  
States.

Article 1

Article 2

1. The taxes which are the subject of this Convention are:
  - (a) In Japan:
    - (i) the income tax; and
    - (ii) the corporation tax  
(hereinafter referred to as "Japanese tax");
  - (b) In Thailand:
    - (i) the income tax; and

(ii) 石油所得税

(以下「タイの租税」と云ふ)

2. この条約は、1に掲げる租税に加えて又は、いれに代わって、この条約の署名の日の後に課せられる租税であつて、1に掲げる租税と同一であるもの又は、実質的に類似するものにつきても、適用する。両締約国の権限のある当局は、それぞれの国の税法について行われた実質的な改正を、その改正後の妥当な期間内に、相互に通知する。

第三条

1. For the purposes of this Convention, unless the context otherwise requires:
- (a) the term "Japan", when used in a geographical sense, means all the territory of Japan, including its territorial waters, in which the laws relating to Japanese tax are in force, and all the area beyond its territorial sea, including the seabed and subsoil thereof, over which Japan has jurisdiction in accordance with international law and in which the laws relating to Japanese tax are in force;
- (b) the term "Thailand" means the Kingdom of Thailand and includes any area adjacent to the territorial waters of the Kingdom of Thailand which, under the Thai legislation and international law, falls under the jurisdiction of the Kingdom of Thailand;
- (c) the terms "a Contracting State" and "the other Contracting State" mean Japan or

1. この条約の適用上、文脈により別に解釈すべき場合を除へば、  
(a) 「日本国」とは、地理的意味で用ひる場合にば、日本国  
の租税に関する法令が施行されてゐるすべての領域（領海  
を含む）及びその領域の外側に位置する水域で日本国が  
国際法に基づき管轄権を有し日本国の租税に関する法令が  
施行されてゐるすべての水域（海底及びその上を含む）  
を云ふ。  
(b) 「タイ」とは、タイ王国を云ふ、タイ王国の領水に隣接  
する水域でタイの法令及び国際法に基づきタイ王国の管轄  
権の下にあるものを含む。  
(c) 「一方の締約国」及び「他方の締約国」とは、文脈によ  
り、日本国又はタイを云ふ。

(d) 「租税」とは、文脈により、日本国の租税又はタイの租税をいう。

(e) 「者」には、個人、法人及び法人以外の団体を含み、タイについてはタイの税法に基づいて課税単位として取り扱われる未分割遺産及び死亡者を含む。

(f) 「法人」とは、法人格を有する団体又は租税に關し法人格を有する団体として取り扱われる団体をいう。

(g) 「一方の締約国の企業」及び「他方の締約国の企業」とは、それぞれ一方の締約国の居住者が當む企業及び他方の締約国の居住者が當む企業をいう。

(h) 「国民」とは、次の者をいう。

(i) 日本国に関するては、日本国の国籍を有するすべての個人並びに日本国法令に基づいて設立され又は組織されたすべての法人及び法人格を有しないが日本国租税に關し日本国法令に基づいて設立され又は組織された法人として取り扱われるすべての団体

(ii) タイに関するては、タイの国籍を有するすべての個人及びタイにおいて施行されている法令によつてその地位を与えられたすべての法人、組合その他の団体

Thailand, as the context requires;

(d) the term "tax" means Japanese tax or Thai tax, as the context requires;

(e) the term "person" includes an individual, a company and any other body of persons and in the case of Thailand also includes an undivided estate and a deceased person treated as a taxable unit under Thai taxation laws;

(f) the term "company" means any body corporate or any entity which is treated as a body corporate for tax purposes;

(g) the terms "enterprise of a Contracting State" and "enterprise of the other Contracting State" mean respectively an enterprise carried on by a resident of a Contracting State and an enterprise carried on by a resident of the other Contracting State;

(h) the term "nationals" means:

(i) in relation to Japan, all individuals possessing the nationality of Japan and all juridical persons created or organized under the laws of Japan and all organizations without juridical personality treated for the purposes of Japanese tax as juridical persons created or organized under the laws of Japan; and  
(ii) in relation to Thailand, all individuals possessing the nationality of Thailand and all legal persons, partnerships, associations and any other entities deriving their status as such from the laws in force in Thailand;

(i) 「国際運輸」とは、一方の締約国の企業が運用する船舶又は航空機による運送（他方の締約国内の地点の間においてのみ運用される船舶又は航空機による運送を除く）をいう。

(j) 「権限のある当該」とは、

(i) 日本国については、大蔵大臣又は権限を与えたその代理者をさう。

(ii) タイについては、大蔵大臣又は権限を与えたその代理者をさう。

2 一方の締約国によるとのりの条約の適用上、この条約において定義されていなる用語は、文脈により別に解釈すべき場合を除くほか、この条約の適用を受ける租税に関する当該一方の締約国の法令における当該用語の意義を有するものとする。

#### 第四条

一方の締約住者

1 この条約の適用上、「一方の締約国の居住者」とは、当該一方の締約国の法令の下において、住所、居所、法人の設立場所、本店又は主たる事務所の所在地その他これらに類する基準により当該一方の締約国において課税を受けるべるものとされる者をいう。ただし、この用語には、当該一方の締約国内に源泉のある所得のみについて当該一方の締約国において課税される者を含まない。

2 1の規定により双方の締約国の居住者に該当する者はいつ

- (i) the term "international traffic" means any transport by a ship or aircraft operated by an enterprise of a Contracting State, except when the ship or aircraft is operated solely between places in the other Contracting State; and
- (j) the term "competent authority" means:
- (i) in the case of Japan, the Minister of Finance or his authorized representative; and
- (ii) in the case of Thailand, the Minister of Finance or his authorized representative.

2. As regards the application of this Convention by a Contracting State, any term not defined therein shall, unless the context otherwise requires, have the meaning which it has under the laws of that Contracting State concerning the taxes to which this Convention applies.

#### Article 4

1. For the purposes of this Convention, the term "resident of a Contracting State" means any person who, under the laws of that Contracting State, is liable to tax therein by reason of his domicile, residence, place of incorporation, place of head or main office or any other criterion of a similar nature. But this term does not include any person who is liable to tax in that Contracting State in respect only of income from sources in that Contracting State.
2. Where by reason of the provisions of paragraph 1 a person is a resident of both

てば、両締約国の権限のある当局は、合意により、(i)の条約の適用上その者が居住者であるとみなされる締約国を決定する。

## 第五条

### Article 5

Contracting States, then the competent authorities of the Contracting States shall determine by mutual agreement the Contracting State of which that person shall be deemed to be a resident for the purposes of this Convention.

- 1 (i)の条約の適用上、「恒久的施設」とは、事業を行つて居る場所であつて企業がその事業の全部又は一部を行つて居る場所をいう。
- 2 「恒久的施設」には、特に、次のものを含む。
  - (a) 事業の管理の場所
  - (b) 支店
  - (c) 事務所
  - (d) 工場
  - (e) 作業場
  - (f) 鉱山、石油又は天然ガスの坑井、採石場その他天然資源を採取する場所
  - (g) 農場又は栽培場
  - (h) 保管のための施設を他の者に提供する者に係る倉庫
- 3 建築工事現場若しくは建設、据付け若しくは組立ての工事又はこれらに関連する監督活動は、三箇月を超える期間存続する場合には、「恒久的施設」とする。
- 4 一方の締約国の企業が他方の締約国内において使用人その

他の職員を通じて役務の提供（コンサルタントの役務の提供を含む）を行う場合には、<sup>1)</sup>のような活動が单一の一事又は複数の関連工事について十二箇月の間に合計六箇月を超える期間行われるときに限り、当該企業は、当該他方の締約国内に「恒久的施設」を有するものとされる。

5 1から4までの規定にかかる、「恒久的施設」とは、  
次のことは、含まれないものとする。

- (a) 企業に属する物品又は商品の保管又は展示のためのみ施設を使用すること。
- (b) 企業に属する物品又は商品の在庫を保管又は展示のためにのみ保有すること。
- (c) 企業に属する物品又は商品の在庫を他の企業による加工のためにのみ保有すること。
- (d) 企業のために物品若しくは商品を購入し又は情報を収集することとのみを目的として、事業を行う一定の場所を保有すること。
- (e) 企業のためにその他の準備的又は補助的な性格の活動を行ふことのみを目的として、事業を行う一定の場所を保有すること。

6 1及び2の規定にかかわらず、一方の締約国内において他方の締約国の企業に代わって行動する者（7の規定が適用される独立の地位を有する代理人を除く）が次のいずれかの

the other Contracting State if it furnishes in that other Contracting State, services including consultancy services through employees or other personnel provided that such activities last (for the same project or two or more connected projects) for a period or periods aggregating more than 6 months within any twelve-month period.

5. Notwithstanding the provisions of the preceding paragraphs of this Article, the term "permanent establishment" shall be deemed not to include:

- (a) the use of facilities solely for the purpose of storage or display of goods or merchandise belonging to the enterprise;
  - (b) the maintenance of a stock of goods or merchandise belonging to the enterprise solely for the purpose of storage or display;
  - (c) the maintenance of a stock of goods or merchandise belonging to the enterprise solely for the purpose of processing by another enterprise;
  - (d) the maintenance of a fixed place of business solely for the purpose of purchasing goods or merchandise, or of collecting information, for the enterprise;
  - (e) the maintenance of a fixed place of business solely for the purpose of carrying on, for the enterprise, any other activity of a preparatory or auxiliary character.
6. Notwithstanding the provisions of paragraphs 1 and 2, where a person - other than an agent of an independent status to whom paragraph 7 applies - is acting in a Contracting State on behalf of an enterprise of the other

活動を行う場合には、当該企業は、当該一方の締約国内に「恒久的施設」を有するものとみなれる。

(a) 当該一方の締約国内で、当該企業に代わって契約を締結

する権限を有し、かつ、その権限を反復して行使する。ただし、その活動が、<sup>5</sup>に掲げる活動（事業を行う一定の場所で行われたとしても、<sup>5</sup>の規定により当該一定の場所が「恒久的施設」とされる活動）のみである場合は、<sup>5</sup>の限りでない。

(b) (a) の権限は有しないが、当該一方の締約国内で、当該企業に属する物品又は商品の在庫を反復して保有し、かつ、当該在庫により当該企業に代わって規則的に注文に応じ又是引き渡す。<sup>5</sup>

(c) (a) の権限は有しないが、当該一方の締約国内で、専ら又は主として、当該企業のために、又は当該企業及び当該企業が支配し若しくは当該企業に支配的的利益を有してくる他の企業のために反復して注文を取得すること。

7 一方の締約国の企業は、通常の方法でその業務を行う仲立人、問屋その他の独立の地位を有する代理人を通じて他方の締約国内において事業を行つてゐるところ理由のみでは、当該他方の締約国内に「恒久的施設」を有するものとみなれない。

8 一方の締約国の居住者である法人が、他方の締約国の居住者である法人若しくは他方の締約国内において事業（「恒久

Contracting State, that enterprise shall be deemed to have a permanent establishment in the first-mentioned Contracting State, if such a person:

(a) has and habitually exercises in the first-mentioned Contracting State, an authority to conclude contracts on behalf of the enterprise, unless his activities are limited to those mentioned in paragraph 5 which, if exercised through a fixed place of business, would not make this fixed place of business a permanent establishment under the provisions of that paragraph;

(b) has no such authority, but habitually maintains in the first-mentioned Contracting State a stock of goods or merchandise belonging to the enterprise from which he regularly fills orders or makes deliveries on behalf of the enterprise; or

(c) has no such authority, but habitually secures orders in the first-mentioned Contracting State wholly or almost wholly for the enterprise or for the enterprise and other enterprises which are controlled by it or have a controlling interest in it.

7. An enterprise of a Contracting State shall not be deemed to have a permanent establishment in the other Contracting State merely because it carries on business in that other Contracting State through a broker, general commission agent or any other agent of an independent status, provided that such persons are acting in the ordinary course of their business.

8. The fact that a company which is a resident of a Contracting State controls or is controlled by a company which is a resident of

的施設」を通じて行われるものであるかないかを問わなゞ）を行ふ法人を支配し、又はこれらに支配されてゐるところへ事実のみによつては、いづれの一方の法人も、他方の法人の「恒久的施設」とはされない。

## 第六条

不動産に  
係る所得

- 1 一方の締約国の居住者が他方の締約国内に存在する不動産から取得する所得に対しても、当該他方の締約国におこして租税を課する」とがやむ。
- 2 「不動産」の用語は、当該財産が存在する締約国の法令における不動産の意義を有するものとする。不動産には、いかなる場合にも、これに附属する財産、農業又は林業に用ひられている家畜類及び設備、不動産に関する一般法の規定の適用がある権利、不動産用益権並びに鉱石、水その他の天然資源の採取又は採取の権利の対価として料金（金額が確定しているかないかを問わなし）を受領する権利を含む。船舶及び航空機は、不動産とはみなれん。
- 3 1の規定は、不動産の直接使用、賃貸その他のすべての形式による使用から生ずる所得について適用する。
- 4 1及び3の規定は、企業の不動産から生ずる所得及び独立の人的役務を提供するために使用される不動産から生ずる所得についても、適用する。

the other Contracting State, or which carries on business in that other Contracting State (whether through a permanent establishment or otherwise), shall not of itself constitute either company a permanent establishment of the other.

## Article 6

1. Income derived by a resident of a Contracting State from immovable property situated in the other Contracting State may be taxed in that other Contracting State.
2. The term "immovable property" shall have the meaning which it has under the laws of the Contracting State in which the property in question is situated. The term shall in any case include property accessory to immovable property, livestock and equipment used in agriculture and forestry, rights to which the provisions of general law respecting immovable property apply, usufruct of immovable property and rights to variable or fixed payments as consideration for the working of, or the right to work, mineral deposits, sources and other natural resources; ships and aircraft shall not be regarded as immovable property.
3. The provisions of paragraph 1 shall apply to income derived from the direct use, letting, or use in any other form of immovable property.
4. The provisions of paragraphs 1 and 3 shall also apply to the income from immovable property of an enterprise and to income from immovable property used for the performance of independent personal services.

## 第七条

### Article 7

企業又は  
恒久的施  
設の利得

- 1 一方の締約国の企業の利得に対しても、その企業が他方の  
締約国内にある恒久的施設を通じて当該他方の締約国内にお  
いて事業を行わない限り、当該一方の締約国においてのみ租  
税を課することがである。一方の締約国の企業が他方の締約  
国内にある恒久的施設を通じて当該他方の締約国内において  
事業を行う場合には、その企業の利得のうち当該恒久的施設  
に帰せられる部分に対してのみ、当該他方の締約国において  
租税を課することがである。
- 2 3の規定に従うことの条件として、一方の締約国の企業が  
他方の締約国内にある恒久的施設を通じて当該他方の締約国  
内において事業を行う場合には、当該恒久的施設が、同一又  
は類似の条件で同一又は類似の活動を行い、かつ、当該恒久  
的施設を有する企業と全く独立の立場で取引を行う別個のか  
つ分離した企業であるとしたならば当該恒久的施設が取得し  
たとみられる利得が、各締約国において当該恒久的施設に帰  
せられるものとする。
- 3 恒久的施設の利得を決定するに当たっては、経営費及び一  
般管理費を含む費用で当該恒久的施設の事業のために生じた  
ものは、当該恒久的施設が存在する締約国内において生じた  
ものであるか他の場所において生じたものであるかを問わ  
ず、損金に算入することを認められ。
- 4 2の規定は、恒久的施設に帰せられるべき利得を企業の利

1. The income or profits of an enterprise of a Contracting State shall be taxable only in that Contracting State unless the enterprise carries on business in the other Contracting State through a permanent establishment situated therein. If the enterprise carries on business as aforesaid, the income or profits of the enterprise may be taxed in that other Contracting State but only so much of them as is attributable to that permanent establishment.

2. Subject to the provisions of paragraph 3, where an enterprise of a Contracting State carries on business in the other Contracting State through a permanent establishment situated therein, there shall in each Contracting State be attributed to that permanent establishment the income or profits which it might be expected to make if it were a distinct and separate enterprise engaged in the same or similar activities under the same or similar conditions and dealing wholly independently with the enterprise of which it is a permanent establishment.

3. In determining the profits of a permanent establishment, there shall be allowed as deductions expenses which are incurred for the purposes of the business of the permanent establishment, including executive and general administrative expenses so incurred, whether in the Contracting State in which the permanent establishment is situated or elsewhere.

4. Insofar as it has been customary in a Contracting State to determine the profits to

得の総額の当該企業の各構成部分への配分によって決定する慣行が一方の締約国にある場合には、租税を課せぬべき利得をその慣行とされている配分の方法によって当該一方の締約国が決定することを妨げるものではない。ただし、用いられる配分の方法は、当該配分の方法によって得た結果が「」の条に定める原則に適合するよくなものでなければならぬ。

5 恒久的施設が企業のために物品又は商品の単なる購入を行つたことを理由としては、「かかる利得も、当該恒久的施設に帰せられる」とはない。

6 1から5までの規定の適用上、恒久的施設に帰せられる利得は、毎年同一の方法によつて決定する。ただし、別的方法を用ひる」として正当な理由がある場合は、「」の限りでない。

7 他の条で別個に取り扱われてゐる種類の所得が企業の利得に含まれる場合には、当該他の条の規定は、「」の条の規定によつて影響される「」ではない。

8 「」の条の適用上、「企業の利得」には、不動産以外の財産(第十二条3に規定する使用料の支払の基準となつたものを除く)の使用又は使用の権利の対価として受領するすべての種類の支払金を含むるものとする。

be attributed to a permanent establishment on the basis of an apportionment of the total profits of the enterprise to its various parts, provided that contracting in Paragraph 2 shall preclude the Contracting State from determining the profits to be taxed by such an apportionment as may be customary; the method of apportionment adopted shall, however, be such that the result shall be in accordance with the principles contained in this Article.

5. No income or profits shall be attributed to a permanent establishment by reason of the mere purchase by that permanent establishment of goods or merchandise for the enterprise.

6. For the purposes of the provisions of the preceding paragraphs of this Article, the profits to be attributed to the permanent establishment shall be determined by the same method year by year unless there is good and sufficient reason to the contrary.

7. Where income or profits include items of income which are dealt with separately in other Articles of this Convention, then the provisions of those Articles shall not be affected by the provisions of this Article.

8. For the purposes of this Article, the term "income or profits" does not include payments of any kind received as a consideration for the use of, or the right to use, any property (other than immovable property), which is not referred to in paragraph 3 of Article 12 are paid.

## 第八条

1 一方の締約国的企业が航空機を国際運輸に運用するに付

1. Income or profits derived by an enterprise

よつて取得する利得に対しでは、当該一方の締約国においてのみ租税を課することがである。

2 一方の締約国の企業が船舶を国際運輸に運用する限りよりつて取得する利得に対しでは、他方の締約国において租税を課する」とがである。ただし、当該他方の締約国において課われる租税の額は、その額の五十パーセントに等しい額だけ軽減される。

3 1及び2の規定は、共同計算、共同経営又は国際経営共同体に参加してくることによつて取得する利得についても適用する。

### 第九条

特殊関係  
企業に係  
る利得

1(a) 一方の締約国の企業が他方の締約国の企業の経営、支配若しくは資本に直接若しくは間接に参加してくる場合又は

(b) 同一の者が一方の締約国の企業及び他方の締約国の企業の経営、支配若しくは資本に直接若しくは間接に参加してくる場合

であつて、そのいずれの場合においても、商業上又は資金上の関係において、双方の企業の間に、独立の企業の間に設けられる条件と異なる条件が設けられ又は課せられてくるときは、その条件がないとしたならば一方の企業の利得となつた

of a Contracting State from the operation of aircraft in international traffic shall be taxable only in that Contracting State.

2. Income or profits derived by an enterprise of a Contracting State from the operation of ships in international traffic may be taxed in the other Contracting State, but the tax so charged in that other Contracting State shall be reduced by an amount equal to 50 per cent thereof.

3. The provisions of Paragraphs 1 and 2 shall also apply to income or profits from the participation in a pool, a Joint business or an international operating agency.

### Article 9

#### 1. Where.

(a) an enterprise of a Contracting State participates directly or indirectly in the management, control or capital of an enterprise of the other Contracting State, or

(b) the same persons participate directly or indirectly in the management, control or capital of an enterprise of a Contracting State and an enterprise of the other Contracting State,

and in either case conditions are made or imposed between the two enterprises in their commercial or financial relations which differ from those which would be made between independent enterprises, then any income or profits which would, but for those conditions,

とみられる利得であつてその条件のために当該一方の企業の利得とならなかつたものに対しても、これを当該一方の企業の利得に算入して租税を課するゝとがである。

2

一方の締約国において租税を課された当該一方の締約国の企業の利得を他方の締約国が1の規定により当該他方の締約国の企業の利得に算入して租税を課する場合において、両締約国の権限のある当局が、協議の上、その算入された利得の全部又は一部が、双方の企業の間に設けられた条件が独立の企業の間に設けられたであろう条件であつたとしたならば当該他方の締約国の企業の利得となつたとみられる利得であることに合意するときは、当該一方の締約国は、その合意された利得に対して当該一方の締約国において課された租税の額につき適当な調整を行う。この調整に当たつては、この条約の他の規定に妥当な考慮を払う。

## 第十一条

- 1 一方の締約国の居住者である法人が他方の締約国の居住者に支払う配当に対しても、当該他方の締約国において租税を課することとされる。
- 2 1の配当に対しても、これを支払う法人が居住者とされる締約国においても、当該締約国の法令に従つて租税を課することができる。その租税の額は、当該配当の受領者が当該配

have accrued to one of the enterprises, but, by reason of those conditions, have not so accrued, may be included in the income or profits of that enterprise and taxed accordingly.

2. Where a Contracting State includes, in accordance with the provisions of paragraph 1, in the income or profits of an enterprise of that Contracting State - and taxes accordingly - income or profits on which an enterprise of the other Contracting State has been charged to tax in that other Contracting State and where the competent authorities of the Contracting States agree, upon consultation, that all or part of the income or profits so included are income or profits which would have accrued to the enterprise of the first-mentioned Contracting State if the conditions made between the two enterprises had been those which would have been made between independent enterprises, then that other Contracting State shall make an appropriate adjustment to the amount of the tax charged therein on those agreed income or profits. In determining such adjustment, due regard shall be had to the other provisions of this Convention.

## Article 10

1. Dividends paid by a company which is a resident of a Contracting State to a resident of the other Contracting State may be taxed in that other Contracting State.
2. However, such dividends may also be taxed in the Contracting State of which the company paying the dividends is a resident, and according to the laws of that Contracting State, but if the recipient is the beneficial

当の受益者であり、かつ、利得の配分に係る事業年度の終了の日に先立つ六箇月の期間を通じ、当該配当を支払う法人の議決権のある株式の少なくとも一十五パーセントを所有する法人である場合には、次の額を超えないものとする。

(a) 産業的事業に従事する法人により支払われた配当である場合には、当該配当の額の十五パーセント

(b) その他の場合には、当該配当の額の一十パーセント

3 (a) の2の規定は、配当に充てられる利得についての当該法人に対する課税に影響を及ぼすものではない。

この条において、「配当」とは、株式その他利得の分配を受ける権利（信用に係る債権を除く）から生ずる所得及びその他の持分から生ずる所得であつて分配を行う法人が居住者とされる締約国の税法上株式から生ずる所得と同様に取り扱われるものをさう。

(b) 2において、「産業的事業」とは、次のものをおこな。

(i) 次の事業

(aa) 製造業、組立業及び加工業

(bb) 建設業、土木業及び造船業

(cc) 発電若しくはガス製造の事業又は水道の供給事業

owner of the dividends and is a company which owns at least 25 per cent of the voting shares of the company paying the dividends during the period of six months immediately before the end of the accounting period for which the distribution of profits takes place, the tax so charged shall not exceed:

(a) 15'per cent of the gross amount of the dividends in the case of the dividends paid by a company engaged in an industrial undertaking; or

(b) 20 per cent of the gross amount of the dividends in other cases.

This paragraph shall not affect the taxation of the company in respect of the profits out of which the dividends are paid.

3. (a) The term "dividends" as used in this Article means income from shares or other rights, not being debt-claims, participating in profits, as well as income from other corporate rights which is subjected to the same taxation treatment as income from shares by the taxation laws of the Contracting State of which the company making the distribution is a resident.

(b) The term "industrial undertaking" as used in paragraph 2 means:

(i) any undertaking engaged in

(aa) manufacturing, assembling and processing,

(bb) construction, civil engineering and shipbuilding,

(cc) production of electricity or gas or the supply of water, or

(dd) 農業、林業、漁業及び栽培業

(dd) agriculture, forestry, fishery, and the carrying on of a plantation, and

(ii) その他の事業で、(i)の条の規定の適用上、その事業が存在する締約国の権限のある当局が「産業的事業」であると認めるもの

4 1 及び 2 の規定は、一方の締約国の居住者である配当の受益者が、当該配当を支払う法人が居住者とされる他方の締約国において当該他方の締約国内にある恒久的施設を通じて事業を行う場合において、当該配当の支払の基団となつた株式その他の持分が当該恒久的施設と実質的な関連を有するものであるときは、適用しない。この場合には、第七条の規定を適用する。

5 一方の締約国の居住者である法人が他方の締約国から利得又は所得を得取る場合には、当該他方の締約国は、当該法人の支払う配当及び当該法人の留保所得についてでは、これらの配当及び留保所得の全部又は一部が当該他方の締約国内において生じた利得又は所得から成るときにおいても、当該配当（当該他方の締約国の居住者に支払われる配当及び配当の支払の基団となつた株式その他の持分が当該他方の締約国内にある恒久的施設と実質的な関連を有するものである場合の配当を除く）に対するかかる租税を課さないが（但し、また、当該留保所得に対して租税を課すべきことがあなる）。

4. The provisions of paragraphs 1 and 2 shall not apply if the beneficial owner of the dividends, being a resident of a Contracting State, carries on business in the other Contracting State of which the company paying the dividends is a resident, through a permanent establishment situated therein, and the holding in respect of which the dividends are paid is effectively connected with such permanent establishment. In such case, the provisions of Article 7 shall apply.

5. Where a company which is a resident of a Contracting State derives profits or income from the other Contracting State, that other Contracting State may not impose any tax on the dividends paid by the company, except insofar as such dividends are paid to a resident of that other Contracting State or insofar as the holding in respect of which the dividends are paid is effectively connected with a permanent establishment situated in that other Contracting State, nor subject the company's undistributed profits to a tax on the company's undistributed profits, even if the dividends paid or the undistributed profits consist wholly or partly of profits or income arising in that other Contracting State.

## 第十一條

## Article 11

1 一方の締約国内において生じ、他方の締約国の居住者に支払われる利子に対しては、当該他方の締約国において租税を課すことと/orする」とがである。

2 1の利子に対しては、当該利子が生じた締約国において、当該締約国の法令に従つて租税を課す。その額は、当該利子の受領者が当該利子の受益者であり、かつ、他方の締約国の居住者である法人の場合には、次の額を超えないものとする。

(a) 金融機関（保険会社を含む）が受け取る利子である場合にば、当該利子の額の十パーセン

(b) その他の場合には、当該利子の額の一十五パーセン

3 2の規定にかかわらず、一方の締約国内において生ずる利子であつて、他方の締約国の中の政府、当該他方の締約国の方公共団体、当該他方の締約国の中の中央銀行又は当該他方の締約国の政府の所有する金融機関に支払うものについては、当該一方の締約国において租税を免除する。

1. Interest arising in a Contracting State and paid to a resident of the other Contracting State may be taxed in that other Contracting State.

2. However, such interest may also be taxed in the Contracting State in which it arises, and according to the Laws of that Contracting State, but if the recipient is the beneficial owner of the interest and is a company which is a resident of the other Contracting State, the tax so charged shall not exceed:

(a) 10 per cent of the gross amount of the interest if it is received by any financial institution (including an insurance company);

(b) 25 per cent of the gross amount of the interest in other cases.

3. Notwithstanding the provisions of Paragraph 2, interest arising in a Contracting State and paid to the Government of the other Contracting State, a local authority thereof, the Central Bank of that other Contracting State or any financial institution wholly owned by the Government of that other Contracting State, shall be exempt from tax in the first-mentioned Contracting State.

4. 「利子」とは、すべての種類の信用に係る債権（担保の有無及び債務者の利得の分配を受ける権利の有無を問わない）から生じた所得、特に、公債、債券又は社債から生じた所得（公債、債券又は社債の割増金及び賞金を含む）及び所得が生じた締約国の税法上貸付金から生じ

た所得と同様に取り扱われるものをふつ。

prizes attaching to such securities, bonds or debentures, as well as income assimilated to income from money lent by the taxation laws of the Contracting State in which the income arises.

5 1及び2の規定は、一方の締約国の居住者であらる利子の収益者が当該利子の生じた他方の締約国において当該他方の締約国内にある恒久的施設を通じて事業を行う場合において、当該利子の支払の基因となつた債権が当該恒久的施設と実質的な関連を有するものであるときは、適用しない。この場合には、第七条の規定を適用する。

6 利子は、その支払者が一方の締約国又は当該一方の締約国

の地方公共団体若しくは居住者である場合には、当該一方の締約国内において生じたものとされる。ただし、利子の支払者（締約国の居住者であるかな）かを問わな））が一方の締約国内に恒久的施設を有する場合において、当該利子の支払の基因となつた債務が当該恒久的施設について生じ、かつ、当該利子が当該恒久的施設によつて負担されるものであるときは、当該利子は、当該恒久的施設の存在する当該一方の締約国内において生じたものとされる。

7 利子の支払の基因となつた債権について考慮した場合において、利子の支払者と受益者との間又はその双方と第三者との間の特別の関係により、利子の額が、その関係がな）とし）たならば支払者及び受益者が合意したとみられる額を超えるときは、この条の規定は、その合意したとみられる額についてのみ適用する。この場合には、支払われた額のうち当該起

Contracting State when the Payer is that Contracting State itself, a local authority thereof or a resident of that Contracting State. Where, however, the person paying the interest, whether he is a resident of a Contracting State or not, has in a Contracting State a permanent establishment in connection with which the indebtedness on which the interest is paid was incurred, and such interest is borne by such permanent establishment, then such interest shall be deemed to arise in the Contracting State in which the permanent establishment is situated.

7. Where, by reason of a special relationship between the payer and the beneficial owner or between both of them and some other person, the amount of the interest, having regard to the debt-claim for which it is paid, exceeds the amount which would have been agreed upon by the payer and the beneficial owner in the absence of such relationship, the provisions of this Article shall apply only to the

過分に対し、の条約の他の規定に妥当な考慮を払った上、各締約国の法令に従つて租税を課する」のがである。

last-mentioned amount. In such case, the excess part of the payments shall remain taxable according to the laws of each Contracting State, due regard being had to the other provisions of this Convention.

## 第十二条

### Article 12

1. 一方の締約国内において生じ、他方の締約国の居住者に支払われる使用料に対しては、当該他方の締約国において租税を課する」とがである。
2. 1の使用料に対しては、当該使用料が生じた締約国においても、当該締約国の法令に従つて租税を課すことが認められる。その租税の額は、当該使用料の受領者が当該使用料の受益者である場合には、当該使用料の額の十五パーセントを超えないものとする。
3. この条における「使用料」とは、文学上、美術上若しくは学術上の著作物（映画フィルム及びラジオ放送用又はテレビジョン放送用のフィルム又はテープを含む。）の著作権、特許権、商標権、意匠、模型、図面、秘密方式若しくは秘密工程の使用若しくは使用的権利の対価として、又は産業上、商業上若しくは学術上の経験に関する情報の対価として受領するすべての種類の支払金をいう。
4. 使用料は、その支払者が一方の締約国又は当該一方の締約国の地方公共団体若しくは居住者である場合には、当該一方の締約国内において生じたものとされる。ただし、使用料の支払者（締約国の居住者であるかないかを問わな）が一 Contracting State or not, has in a Contracting

方の締約国内に恒久的施設を有する場合において、当該使用料を支払う債務が当該恒久的施設について生じ、かつ、当該使用料が当該恒久的施設によって負担されるものであるときは、当該使用料は、当該恒久的施設の存在する当該一方の締約国内において生じたものとされる。

5. 1、2及び4の規定は、文学上、美術上若しくは学術上の著作物（映画フィルム及びラジオ放送用又はテレビジョン放送用のフィルム又はテープを含む。）の著作権、特許権、商標権、意匠、模型、図面、秘密方式又は秘密工程の譲渡から生ずる収入についても、同様に適用する。ただし、その収入に係る収益について次条2の規定が適用される場合は、の限りではない。

6. 1、2及び5の規定は、一方の締約国の居住者である使用料又は収入の受益者が当該使用料又は収入の生じた他方の締約国において当該他方の締約国内にある恒久的施設を通じて事業を行う場合において、当該使用料又は収入の支払の基因となつた権利又は財産が当該恒久的施設と実質的な関連を有するものであるときは、適用しない。この場合には、第七条の規定を適用する。

7. 使用料又は収入の支払の基因となつた使用、権利又は情報について考慮した場合において、使用料若しくは収入の支払者と受益者との間又はその双方と第三者との間の特別の関係により、使用料又は収入の額が、その関係がなこととしたならば支払者及び受益者が合意したとみられる額を超えるときは、この条の規定は、その合意したとみられる額についての

State a permanent establishment in connection with which the liability to pay the royalties was incurred, and such royalties are borne by such permanent establishment, then such royalties shall be deemed to arise in the Contracting State in which the permanent establishment is situated.

5. The provisions of paragraphs 1, 2 and 4 of this Article shall likewise apply to proceeds arising from the alienation of any copyright of literary, artistic or scientific work including cinematograph films, and films or tapes for radio or television broadcasting, any patent, trade mark, design or model, plan, or secret formula or process, except when the provisions of paragraph 2 of Article 13 are applicable to the gains to be derived from such proceeds.

6. The provisions of paragraphs 1, 2 and 5 shall not apply if the beneficial owner of the royalties or proceeds, being a resident of a Contracting State, carries on business in the other Contracting State in which the royalties or proceeds arise, through a permanent establishment situated therein, and the right or property in respect of which the royalties or proceeds are paid is effectively connected with such permanent establishment. In such case, the provisions of Article 7 shall apply.

7. Where, by reason of special relationship between the payer and the beneficial owner or between both of them and some other person, the amount of the royalties or proceeds, having regard to the use, right or information for which they are paid, exceeds the amount which would have been agreed upon by the payer and the beneficial owner in the absence of such relationship, the provisions of this Article

み適用する。この場合には、支払われた額のうち前該超過分に対し、この条約の他の規定に妥当な考慮を払った上、各締約国の法令に従って租税を課すことができる。

## 第十二一条

shall apply only to the last-mentioned amount.  
In such case, the excess part of the payments  
shall remain taxable according to the Laws of  
each Contracting State, due regard being had to  
the other provisions of this Convention.

### Article 13

1. 一方の締約国の居住者が第六条に規定する不動産で他方の締約国内に存在するものの譲渡によって取得する収益に対しでは、当該他方の締約国において租税を課すことができる。
  2. 一方の締約国の企業が他方の締約国内に有する恒久的施設の事業用資産の一部を成す財産(不動産を除く)の譲渡から生ずる収益(単独に又は企業全体として行われる当該恒久的施設の譲渡を含む)に対しでは、当該他方の締約国において租税を課すことができる。
  3. 一方の締約国の居住者が国際運輸に運用する船舶又は航空機及びこれら船舶又は航空機の運用に係る財産(不動産を除く)の譲渡によつて取得する収益に対しでは、当該一方の締約国におよぶのみ租税を課すことができる。
  4. 一方の締約国の居住者が1から3まで及び前条5に規定する財産以外の財産の譲渡によつて取得する収益であつて他方の締約国において生ずるものに対しでは、当該他方の締約国において租税を課すことができる。
1. Gains derived by a resident of a Contracting State from the alienation of immovable property referred to in Article 6 and situated in the other Contracting State may be taxed in that other Contracting State.
  2. Gains from the alienation of any property, other than immovable property, forming part of the business property of a permanent establishment which an enterprise of a Contracting State has in the other Contracting State, including such gains from the alienation of such a permanent establishment (alone or together with the whole enterprise), may be taxed in that other Contracting State.
  3. Gains derived by a resident of a Contracting State from the alienation of ships or aircraft operated in international traffic and any property, other than immovable property, pertaining to the operation of such ships or aircraft shall be taxable only in that Contracting State.
  4. Gains derived by a resident of a Contracting State from the alienation of any property other than that referred to in Paragraphs 1 to 3 of this Article and paragraph 5 of Article 12 and arising in the other Contracting State may be taxed in that other Contracting State.

## 第十四条

## Article 14

人  
的  
役  
務  
提  
供  
す  
る  
報  
酬

1 次条から第十九条までの規定が適用される場合を除くほか、一方の締約国の居住者が他方の締約国内において提供する人的役務（自由職業を含む。）について取得する報酬又は所得（退職年金及びこれに類する報酬を除く。）に対しては、当該他方の締約国において租税を課することができる。ただし、その報酬又は所得については、次の(a)から(c)までに掲げることを条件として、当該他方の締約国において租税を免除する。

(a) 報酬又は所得の受領者が当該年を通じて合計百八十日を超えない期間当該他方の締約国内に滞在する。

(b) 報酬又は所得が当該一方の締約国の居住者又は、いれに代わる者から支払われるものである。

(c) 報酬又は所得が当該他方の締約国において租税を課される企業によって負担されるものでない。

2 1の規定にかかわらず、一方の締約国の居住者が国際運輸に運用する船舶又は航空機内において行われる勤務に係る報酬に対しては、当該一方の締約国において租税を課さないとができる。

1. Subject to the provisions of Articles 15 to 19, remuneration or income, other than a pension or similar remuneration, derived by a resident of one of the Contracting States in respect of personal (including professional) services rendered in the other Contracting State may be taxed in that other Contracting State. However, such remuneration or income shall be exempt from tax in that other Contracting State if:

- (a) the recipient is present in that other Contracting State for a period or periods not exceeding in the aggregate 180 days in the calendar year concerned;
  - (b) the remuneration or income is paid by, or on behalf of, a person who is a resident of the first-mentioned Contracting State; and
  - (c) the remuneration or income is not borne by an enterprise chargeable to tax in that other Contracting State.
2. Notwithstanding the provisions of paragraph 1, remuneration in respect of an employment exercised aboard a ship or aircraft operated in international traffic by a resident of a Contracting State may be taxed in that Contracting State.

## 第十五条

一方の締約国の居住者が他方の締約国の居住者である法人の

役員の報

Directors' fees and other similar payments

## Article 15

芸能人等  
の所得

役員の資格で取得する役員報酬その他に類する支払金に対する  
税は、当該他方の締約国において租税を課さるゝことがやれる。

#### 第十六条

derived by a resident of a Contracting State in his capacity as a member of the board of directors of a company which is a resident of the other Contracting State may be taxed in that other Contracting State.

#### Article 16

1 一方の締約国の居住者である個人が演劇、映画、ラジオ若しくはテレビジョンへの俳優、音楽家その他の芸能人又は運動家として他方の締約国内で行う個人的活動によつて取得する所得に対しでは、当該他方の締約国において租税を課するゝとがである。

もつゞめ、そのような活動が両締約国の政府間で合意された文化交流のための特別の計画に基づき当該一方の締約国の居住者である個人により行われる場合には、当該所得につゝては、当該他方の締約国において租税を免除する。

2 一方の締約国内で行う芸能人又は運動家としての個人的活動に関する所得が当該芸能人又は運動家以外の他方の締約国の居住者である者に帰属する場合には、当該所得に対しては第七条の規定にかかわらず、当該一方の締約国において租税を課するゝものである。

1. Income derived by an individual who is a resident of a Contracting State as an entertainer such as a theatre, motion picture, radio or television artiste, and a musician, or as an athlete, from his personal activities as such exercised in the other Contracting State, may be taxed in that other Contracting State.

Such income shall, however, be exempt from tax in that other Contracting State if such activities are exercised by an individual who is a resident of the first-mentioned Contracting State pursuant to a special programme for cultural exchange agreed upon between the Governments of the two Contracting States.

2. Where income in respect of personal activities exercised in a Contracting State by an entertainer or an athlete in his capacity as such accrues not to the entertainer or athlete himself but to another person who is a resident of the other Contracting State, that income may, notwithstanding the provisions of Article 7, be taxed in the first-mentioned Contracting State.

Such income shall, however, be exempt from tax in the first-mentioned Contracting State if such activities are exercised pursuant to a special programme for cultural exchange agreed upon between the Governments of the two Contracting States.

において租税を免除する。

### Contracting States.

#### Article 17

公務遂行  
に係る報酬

#### 第十七条

1. (a) 政府の職務の遂行として一方の締約国又は当該一方の締約国の地方公共団体に対し提供される役務につき、個人に対し当該一方の締約国又は当該一方の締約国の地方公共団体によって支払われる報酬(退職年金を除く)に對しては、当該一方の締約国においてのみ租税を課すことがである。
- (b) もつとも、当該役務が他方の締約国内において提供され、かつ、(a)の個人が次の(i)又は(ii)に該当する当該他方の締約国の居住者である場合には、その報酬に對しては、当該他方の締約国においてのみ租税を課することがである。
- (i) 当該他方の締約国の国民
- (ii) 専ら当該役務を提供するため当該他方の締約国の居住者となつた者でないもの
2. (a) 一方の締約国又は当該一方の締約国の地方公共団体に対し提供される役務につき、個人に対し、当該一方の締約国若しくは当該一方の締約国の地方公共団体によって支払われ、又は当該一方の締約国若しくは当該一方の締約国の地方公共団体が拠出した基金から支払われる退職年金に対しても、当該一方の締約国においてのみ租税を課することができる。

1. (a) Remuneration, other than a pension, paid by a Contracting State or a local authority thereof to an individual in respect of services rendered to that Contracting State or local authority thereof, in the discharge of functions of a governmental nature, shall be taxable only in that Contracting State.

- (b) However, such remuneration shall be taxable only in the other Contracting State if the services are rendered in that other Contracting State and the individual is a resident of that other Contracting State who:

- (i) is a national of that other Contracting State; or

- (ii) did not become a resident of that other Contracting State solely for the purpose of rendering the services.

2. (a) Any pension paid by, or out of funds to which contributions are made by, a Contracting State or a local authority thereof to an individual in respect of services rendered to that Contracting State or local authority thereof shall be taxable only in that Contracting State.

(b) もっとも、(a)の個人が他方の締約国の居住者であり、かつ  
、当該他方の締約国の国民である場合には、その退職年  
金に対しては、当該他方の締約国においてのみ租税を課す  
ることができる。

3 この条の規定は、一方の締約国又は当該一方の締約国の地  
方公共団体の行う事業に関連して提供される役務につき支払  
われる報酬及び退職年金には、適用しない。

### 第十八条

1 一方の締約国を訪れた当初に他方の締約国の居住者である  
個人で、当該一方の締約国の政府又は当該一方の締約国内の  
公認された大学、学校その他の教育機関の招請により、当該  
一方の締約国内の教育機関において教育又は研究を行うため  
二年を超えない期間当該一方の締約国を訪れるものは、その  
教育又は研究に対する報酬について、当該一方の締約国の租  
税を免除される。

2 1の規定は、主として特定の者の私的利益のために行われ  
る教育又は研究から生ずる所得については、適用しない。

### 第十九条

(b) However, such pension shall be taxable  
only in the other Contracting State if  
the individual is a resident of, and a  
national of, that other Contracting  
State.

3. The provisions of this Article shall not  
apply to remuneration or a pension in respect  
of services rendered in connection with a  
business carried on by a Contracting State or a  
local authority thereof.

### Article 18

1. An individual who is a resident of one of  
the Contracting States at the beginning of a  
visit to the other Contracting State and who at  
the invitation of the Government of the other  
Contracting State, or of a recognized  
university, college, school or other  
educational institution in that other  
Contracting State, visits that other  
Contracting State for a period not exceeding  
two years for the purpose of teaching or  
engaging in research at such educational  
institution in that other Contracting State,  
shall be exempt from tax of that other  
Contracting State in respect of the  
remuneration for such teaching or research.

2. The provisions of paragraph 1 shall not  
apply to income from teaching or research if  
such teaching or research is undertaken  
primarily for the private benefit of a specific  
person or persons.

### Article 19

学生、事業修習者への送金等

一方の締約国を訪れる直前に他方の締約国の居住者であった個人であつて、専ら、

- (a) 大学その他の公認された教育機関において勉学するため、職業上若しくは商業上の資格に必要な訓練を受けるため、
- (b) 又は

(c) 政府若しくは宗教、慈善、学術、文芸若しくは教育の団体からの交付金、手当若しくは奨励金の受領者として勉学若しくは研究を行うため、

当該一方の締約国を訪問するものは、次のものに依る。但し、当該一方の締約国内において租税を免除される。

- (i) 生計、教育、勉学、研究又は訓練のための海外からの送金  
交付金、手当又は奨励金
- (ii) 五年を超えない期間内に当該一方の締約国において提供する人的役務による所得（当該所得が生計及び教育に必要な収入を構成する場合に限る。）

## 第二十条

1 一方の締約国の居住者の所得（源泉地を問わなく）以前各条に規定がないものに対しても、当該一方の締約国においてのみ租税を課することができる。

その他の所得

1. Items of income of a resident of a Contracting State, wherever arising, not dealt with in the foregoing Articles of this Convention shall be taxable only in that Contracting State.

## Article 20

An individual who, immediately before visiting a Contracting State, was a resident of the other Contracting State and whose visit to the first-mentioned Contracting State is solely for the purpose of:

- (a) studying at a university or other recognized educational institution; or
- (b) securing training to qualify him to practise a profession or trade; or
- (c) reciprocating or carrying out research as a recipient of a grant, allowance or award from a governmental, religious, charitable, scientific, literary or educational organization;

shall be exempt from tax in the first-mentioned Contracting State on:

- (i) remittances from abroad for the purposes of his maintenance, education, study, research or training;
- (ii) the grant, allowance or award; and
- (iii) income from personal services rendered in that Contracting State for a period not exceeding five years, provided the income constitutes earnings necessary for his maintenance and education.

1の規定は、一方の締約国の居住者である所得（第六条2に規定する不動産から生ずる所得を除く）の受領者が、他方の締約国において当該他方の締約国内にある恒久的施設を通じて事業を行う場合において、当該所得の支払の基団となつた権利又は財産が当該恒久的施設と実質的な関連を有するものであるときは、当該所得については、適用しない。この場合には、第七条の規定を適用する。

3 1及び2の規定にかかるわらず、一方の締約国の居住者の所得のうち、他方の締約国内において生ずるものであつて前各条に規定がないものに対しては、当該他方の締約国において租税を課する」とがやれる。

### 第二十一一条

1 タイ以外の国において納付される租税をタイの租税から控除することに関するタイの法令に従ふ、タイの居住者がいの条約の規定に従つて日本国において租税を課される所得を日本国において取得する場合には、当該所得について納付される日本国の租税の額は、当該居住者に対して課されるタイの租税の額から控除する。ただし、控除の額は、タイの租税の額のうち当該所得に対応する部分を超えないものとする。

2 日本国以外の国において納付される租税を日本国の中税から控除する」とに関する日本国の中法令に従ふ、

2. The provisions of paragraph 1 shall not apply to income, other than income from immovable property as defined in paragraph 2 of Article 6, if the recipient of such income, being a resident of a Contracting State, carries on business in the other Contracting State through a permanent establishment situated therein, and the right or property in respect of which the income is paid is effectively connected with such permanent establishment. In such case, the provisions of Article 7 shall apply.

3. Notwithstanding the provisions of paragraphs 1 and 2, items of income of a resident of a Contracting State not dealt with in the foregoing Articles of this Convention and arising in the other Contracting State may be taxed in that other Contracting State.

### Article 21

1. Subject to the laws of Thailand regarding the allowance as a credit against Thai tax of tax payable in any country other than Thailand, where a resident of Thailand derives income from Japan which may be taxed in Japan in accordance with the provisions of this Convention, the amount of Japanese tax payable in respect of that income shall be allowed as a credit against the Thai tax imposed on that resident. The amount of credit, however, shall not exceed that part of the Thai tax which is appropriate to that income.

2. Subject to the laws of Japan regarding the allowance as a credit against Japanese tax of tax payable in any country other than Japan:

(a) 日本国の居住者がこの条約の規定に従つてタイにおいて取得される所得を課される所得をタイにおいて取得する場合は、当該所得について納付されるタイの租税の額は、当該居住者に対する課られる日本国の租税の額から控除する。ただし、控除の額は、日本国の租税の額のうち当該所得に対応する部分を超えないものとする。

(b) タイにおいて取得される所得が、タイの居住者である法人によりその議決権のある株式又はその発行済株式の少なくとも二十五パーセントを所有する日本国の居住者である法人に対する支払われる配当である場合には、日本国の租税からの控除を行うに当たり、当該配当を支払う法人によりその所得について納付されるタイの租税を考慮に入れるものとする。

3 4 の規定が適用される場合を除くほか、2(a)に規定する控除の適用上、「納付されるタイの租税」には、第十条2又は第十二条2若しくは3の規定に従つて軽減が行われなことしたならば納付されたとみられるタイの租税の額を含むものとみなす。

4 (a) 2に規定する控除の適用上、「納付されるタイの租税」には、次のいずれかのものに従つて軽減又は免除が行われないとしたならばタイの法令に基づき納付されたとみられるタイの租税の額を含むものとみなす。

- この条約の署名の日に実施されてゐる十九百七十七年

(a) Where a resident of Japan derives income from Thailand which may be taxed in Thailand in accordance with the provisions of this Convention, the amount of Thai tax payable in respect of that income shall be allowed as a credit against the Japanese tax imposed on that resident. The amount of credit, however, shall not exceed that part of the Japanese tax which is appropriate to that income.

(b) Where the income derived from Thailand is a dividend paid by a company which is a resident of Thailand to a company which is a resident of Japan and which owns not less than 25 per cent either of the voting shares of the company paying the dividend, or of the total shares issued by that company, the credit shall take into account the Thai tax payable by the company paying the dividend in respect of its income.

3. Subject to the provisions of paragraph 4, for the purposes of the credit referred to in paragraph 2(a) above, the term "Thai tax payable" shall be deemed to include the amount of the Thai tax which would have been paid if the Thai tax had not been reduced in accordance with the provisions of paragraph 2 of Article 10 or paragraph 2 or 5 of Article 12.

4. (a) For the purposes of the credit referred to in paragraph 2 above, the term "Thai tax payable" shall be deemed to include the amount of the Thai tax which would have been paid under the laws of Thailand if the Thai tax had not been reduced or exempted in accordance with:

- the provisions of the sections 31,

(仏曆一千五百一十年) 投資奨励法第三十一条、第三十一条、第三十四条、第三十五条(2)、第三十五条(3)、第三十五条(4)若しくは第三十六条(4)の規定又は

(ii) この条約の署名の日の後に修正された(i)に掲げる規定

若しくはタイの経済開発を促進するためのその他の特別の奨励措置であつて(i)に掲げる規定に基づく現行の措置の修正若しくは(i)への追加としてタイの租税に関する法令に将来導入されるもの。ただし、両締約国のが前記の修正された規定又は前記の奨励措置により納税者に与えられる特典の範囲に合意する限りを条件とする。

(a) (i) の規定 (千九百七十七年 (仏曆一千五百一十年) 投

資奨励法第三十五条(3)又は第三十六条(4)に係る部分に限る)は個々の事案について同法第三十五条(3)又は第三十六条(4)の規定に従つて最初にタイの租税の免除若しくは軽減が行われた課税年度又はこの条約の適用が開始された課税年度のいずれか遅い方の課税年度から十三年目の課税年度の後に生ずる所得に関する適用しな。

5. 3又は4の規定の適用がある場合には、第十条2の規定が適用される配当又は第十二条2若しくは5の規定が適用される使用料若しくは収入については、2(a)及び3又は4(a)の規定に従つて与えられる日本国の租税からのいかなる控除も

33, 34, 35(2), 35(3), 35(4) or 36(4) of the Investment Promotion Act, B.E. 2520 (1977), as effective on the date of the signature of this Convention; or

(i) any provision referred to in (i) above as modified after the date of signature of this Convention or any other special incentive measure designed to promote economic development in Thailand which may be introduced in future in the Thai tax laws in modification of, or in addition to, the existing measures referred to in (i) above, provided that an agreement is made between the two Governments in respect of the scope of the benefit accorded to the taxpayer by the said provision so modified or the said measure.

(b) The provisions of sub-paragraph (a) (i) above shall not, to the extent that the section 35(3) or 36(4) of the Investment Promotion Act, B.E. 2520 (1977) is concerned, apply in each individual case in respect of income arising after the thirteenth taxable year since the exemption from, or reduction of, Thai tax is first granted in accordance with the provisions of such sections, or since this Convention has effect, whichever is later.

5. For the purposes of Paragraphs 3 and 4 above, with respect to dividends, royalties or proceeds to which the provisions of paragraph 2 of Article 10 or Paragraph 2 or 5 of Article 12, as the case may be, are applicable, any credit against Japanese tax granted in accordance with the provisions of paragraph 2

当該配当、使用料又は収入の額の一十五ペーセンを超えた  
ことのとする。

内国民待  
遇

### 第二十一一条

#### Article 22

1 一方の締約国の国民は、他方の締約国において、同様の状況にある当該他方の締約国の国民に課せられており若しくは課せらるることのある租税若しくはこれに関連する要件以外の租税若しくはこれに関連する要件又はより重い租税若しくはこれに関連する要件を課せられることはなら。

2 一方の締約国の企業が他方の締約国内に有する恒久的施設に対する租税は、当該他方の締約国において、同様の活動を行なう当該他方の締約国の企業に対して課せられる租税よりも不利に課せられるとはなら。

この二の規定は、一方の締約国に対し、家族の状況又は家族を扶養するための負担を理由として自国の居住者に認める租税上の人的控除、救済及び軽減を他方の締約国の居住者に認めるなどを義務付けるものと解してはなら。

1. Nationals of a Contracting State shall not be subjected in the other Contracting State to any taxation or any requirement connected therewith which is other or more burdensome than the taxation and connected requirements to which nationals of that other Contracting State in the same circumstances are or may be subjected.

2. The taxation on a permanent establishment which an enterprise of a Contracting State has in the other Contracting State shall not be less favourably levied in that other Contracting State than the taxation levied on enterprises of that other Contracting State carrying on the same activities.

This provision shall not be construed as obliging a Contracting State to grant to

residents of the other Contracting State any personal allowances, reliefs and reductions for taxation purposes on account of civil status or family responsibilities which it grants to its own residents.

3 第九条、第十一條<sup>7</sup>又は第十二條<sup>7</sup>の規定が適用される場合を除くほか、一方の締約国の企業が他方の締約国居住者に支払った利子、使用料その他の支払金については、当該企業の課税対象利得の決定に当たって、当該一方の締約国居住者に支払われたとした場合における条件と同様の条件で扣除するものとする。

3. Except where the provisions of Article 9, paragraph 7 of Article 11, or paragraph 7 of Article 12, apply, interest, royalties and other disbursements paid by an enterprise of a Contracting State to a resident of the other Contracting State shall, for the purpose of determining the taxable profits of such enterprise, be deductible under the same conditions as if they had been paid to a

(a) and paragraph 3 or 4(a) above shall not exceed 25 per cent of the gross amount thereof.

resident of the first-mentioned Contracting State.

4. 一方の締約国の企業であつてその資本の全部又は一部が他方の締約国の一又は二以上の居住者により直接又は間接に所  
有され又は支配されでらるものは、当該一方の締約国において、当該一方の締約国の類似の他の企業に課せられておらず若し  
くは課せられることがある租税若しくはこれに関連する要件以  
外の租税若しくはこれに関連する要件又はより重い租税若し  
くはこれに関連する要件を課せられるとはなら。

5. この条において、「租税」とは、いの条約の対象である租  
税をいふ。

### 第二十二条

不服申立て及ひ申立て  
國當局間協議

1. いすれか一方の又は双方の締約国の措置によりいの条約の  
規定に適合しない課税を受けたと又は受けれるとなると認  
める居住者は、当該事案について、当該締約国の法令に定め  
る救済手段とは別に、自己が居住者である締約国の権限ある  
当局に対して、申立てをすることができる。当該申立ては、  
この条約の規定に適合しない課税に係る当該措置の最初の通  
知の日から二年以内にしなければならない。

2. 権限のある当局は、1の申立てを正当と認めるが、満足す  
べき解決を与えることができない場合には、いの条約の規定  
に適合しない課税を回避するため、他方の締約国の権限のあ

1. Where a resident considers that the actions of one or both of the Contracting States result or will result for him in taxation not in accordance with the provisions of this Convention, he may, irrespective of the remedies provided by the domestic laws of those Contracting States, present his case to the competent authority of the Contracting State of which he is a resident. The case must be presented within three years from the first notification of the action resulting in taxation not in accordance with the provisions of this Convention.

2. The competent authority shall endeavour, if the objection appears to it to be justified and if it is not itself able to arrive at a satisfactory solution, to resolve the case by

る当局との合意によりて当該事案を解決するべく努める。

3 両締約国の権限のある当局は、この条約の解釈又は適用に

関して生ずる困難又は疑義を合意によりて解決するよう努める。両締約国の権限のある当局は、また、この条約に定めたない場合における二重課税を除去するため、相互に協議することができる。

4 両締約国の権限のある当局は、2及び3の合意に達するたため、直接相互に通信することができるのである。

#### 第十一十四条

1. The competent authorities of both Contracting States may exchange such information available under their respective tax laws in the normal course of administration as is necessary for carrying out the provisions of this Convention or for the prevention of fraud or for the administration of statutory provisions against tax avoidance in relation to the tax. Any information so exchanged shall not be treated as secret and shall not be disclosed to any person other than those, including a court, concerned with the assessment and collection of the tax or the determination of appeal in relation thereto.
2. In no case shall the provisions of paragraph 1 be construed so as to impose on a Contracting State the obligation:

外交官又は領事官の特権と  
関係

批准、  
力発生、  
期の適用  
開始

(a) 当該一方の締約国又は他方の締約国の法令及び行政上の慣行に抵触する行政上の措置をとる。」。

(b) 当該一方の締約国又は他方の締約国の法令の下において又は行政の通常の運営において入手するにかぎりならない情報を提供する。」。

(c) 営業上、事業上、商業上若しくは職業上の秘密若しくは取引の過程を明らかにするよくな情報又は公開するにが公の秩序に反するにかな情報を提供する。」。

(a) to carry out administrative measures at variance with the laws and the administrative practice of that or of the other Contracting State;

(b) to supply information which is not obtainable under the laws or in the normal course of the administration of that or of the other Contracting State;

(c) to supply information which would disclose any trade, business, secret or trade process, or information, the disclosure of which would be contrary to public policy.

## 第二十五条

この条約のいかなる規定も、国際法の一般原則又は特別の協定に基づく外交官又は領事官の租税上の特権に影響を及ぼすものではない。

## 第二十六条

Nothing in this Convention shall affect the fiscal privileges of diplomatic agents or consular officers under the general rules of international law or under the provisions of special agreements.

## Article 25

1 この条約は、批准されなければならない。批准書は、できる限り速やかにバンコックで交換されるものとする。

2 この条約は、批准書の交換の日以後三十日以内に効力を生ずるものとし、次のものについて適用する。

(a) 日本国においては、

この条約が効力を生ずる年の翌年の一月一日以後に開始

1. This Convention shall be ratified and the instruments of ratification shall be exchanged at Bangkok as soon as possible.

2. This Convention shall enter into force on the thirtieth day after the date of the exchange of instruments of ratification and shall have effect:

(a) in Japan:

この条約が効力を生ずる年の翌年の一月一日以後に開始

タイとの租税（所得）条約

する各課税年度の所得

(b) タイにおいては、

(i) この条約が効力を生ずる年の翌年の一月一日以後に由國の居住者でない者に対し支払われた又は送金された金額について源泉徴収される租税

(ii) この条約が効力を生ずる年の翌年の一月一日以後に開始する各課税年度又は事業年度の所得に対するその他の租税

3 千九百六十三年三月一日にバンコックで署名された所得に対する租税に関する二重課税の回避及び脱税の防止のための

日本国とタイとの間の条約は、2の規定に従つてこの条約が適用される所得につき終了し、かつ、適用されなくなる。

第二十七条

この条約は、無期限に効力を有する。ただし、一方の締約国も、この条約の効力発生の日から五年の期間が満了した後に開始する毎年六月三十日以前に、外交上の経路を通じて他方の締約国に対し書面による終了の通告を行うことができる。この場合には、この条約は、次のものについて効力を失う。

This Convention shall continue in effect indefinitely but either Contracting State may, on or before the thirtieth day of June of any calendar year beginning after the expiration of a period of five years from the date of its entry into force, give to the other Contracting State, through the diplomatic channel, written notice of termination and, in such event, this Convention shall cease to have effect:

Article 27

beginning on or after the first day of January of the calendar year next following that in which this Convention enters into force; and

(b) in Thailand:  
(i) in respect of taxes withheld at the source, on amounts paid or remitted to non-residents on or after the first day of January of the calendar year next following that in which this Convention enters into force;

(ii) in respect of other taxes on income for any taxable year or accounting period beginning on or after the first day of January of the calendar year next following that in which this Convention enters into force.

3. The Convention between Japan and Thailand for the Avoidance of Double Taxation and the Prevention of Fiscal Evasion with respect to Taxes on Income signed at Bangkok on March 1, 1953, shall terminate and cease to have effect in respect of income to which this Convention applies under the provisions of paragraph 2.

(a) 日本国においては、終了の通告が行われた年の翌年の1月1日以後に開始する各課税年度の所得

(b)

タイにおいては、

- (i) 終了の通告が行われた年の翌年の1月1日以後に自国の居住者でない者に対し支払われた又は送金された金額について源泉徴収される租税
- (ii) 終了の通告が行われた年の翌年の1月1日以後に開始する各課税年度又は事業年度の所得に対するその他の租税

以上の証拠として、下名は、各自の政府から正當に委任を受けてこの条約に署名した。

千九百九十年四月七日に東京で、英語により本書一通を作成した。

日本国政府のために  
中山太郎

タイ政府のために

シティ・サウエートシラー

タイとの租税(所得)条約

(a) in Japan:

as regards income for any taxable year beginning on or after the first day of January of the calendar year next following that in which the notice of termination is given; and

(b) in Thailand:

(i) in respect of taxes withheld at the source, on amounts paid or remitted to non-residents on or after the first day of January of the calendar year next following that in which the notice of termination is given;

(ii) in respect of other taxes on income for any taxable year or accounting period beginning on or after the first day of January of the calendar year next following that in which the notice of termination is given.

IN WITNESS WHEREOF the undersigned, duly authorized thereto by their respective Governments, have signed this Convention.

DONE in duplicate at Tokyo on this seventh day of April, 1990 in the English language.

For the Government  
of Japan:  
Taro Nakayama

For the Government  
of Thailand:  
Siddhi Savettsila

## 議定書

## 議定書

所得に対する租税に関する一重課税の回避及び脱税の防止のための日本国とタイとの間の条約(以下「条約」と云ふ。)の署名に当たり、下名は、条約の不可分の一部を成す次の規定を協定した。

1

条約第五条7に關し、「仲立人、問屋その他の独立の地位を有する代理人」には、一方の締約国内で、専ら又は主として、他方の締約国の企業のために若しくはこれに代わって、又は当該企業及び当該企業が支配し若しくは当該企業に支配的利息を有している他の企業のために若しくはこれらに代わって、同条6(a)、(b)又は(c)に規定されてくる活動に從事する者を含まないものと了解される。

2

条約第七条3に關し、企業の恒久的施設が当該企業の本店又は当該企業の他の事務所に支払った又は振り替えた支払金(実費弁償に係るものを除く)で次に掲げるものについてとは、損金に算入する」とが認められない。

(a) 特許権その他の権利の使用の対価として支払われる使用料、報酬その他これらに類する支払金

(b) 特定の役務の提供又は事業の管理の対価として支払われる手数料

(c) 当該恒久的施設に対する貸付けに係る利子(当該企業が

At the signing of the Convention between Japan and Thailand for the Avoidance of Double Taxation and the Prevention of Fiscal Evasion with respect to Taxes on Income (hereinafter referred to as "the Convention"), the undersigned have agreed upon the following provisions which shall form an integral part of the Convention.

1. With reference to paragraph 7 of Article 5 of the Convention, the term "a broker, general commission agent or any other agent of an independent status" is understood not to include a person who is engaged in one of the Contracting States in such activities as prescribed in sub-paragraphs (a), (b) or (c) of paragraph 6 of the said Article wholly or almost wholly for or on behalf of an enterprise of the other Contracting State or for or on behalf of such enterprise and other enterprises which are controlled by or have a controlling interest in such enterprise.

2. With reference to paragraph 3 of Article 7 of the Convention, no deduction shall be allowed in respect of amounts paid or charged (other than reimbursement of actual expenses) by a permanent establishment of an enterprise to the head office of the enterprise or any other offices thereof, by way of:

(a) royalties, fees or other similar payments in return for the use of patents or other rights;

(b) commission, for specific services performed or for management; and

(c) interest on moneys lent to the

## PROTOCOL

銀行業を営む企業である場合を除く。

3

条約第七条2'、3及び4に關し、日本國の居住者が、タイ国内にある恒久的施設の実際の純利得によつてタイにおいて租税を課されることを要求しない場合には、これらのいかなる規定も、タイが、当該恒久的施設に帰せられるべき利得を当該恒久的施設の総収入の一定の妥当な比率によつて決定する」とを妨げるものではない。ただし、その結果が同条に定める原則に適合するよくなるものでなければならぬ。

4

条約第十条3(b)に關し、「産業的事業」とは、また、産業投資の奨励に関するタイの法律に基づいて与えられる特典を受けることのできるすべての事業をいう。

5

条約のいかなる規定も、恒久的施設によるタイの国外への利得の処分に対し、タイが、千九百三十八年（仏曆一千四百八十一年）タイ歳入法第七十条の一に従ふ租税を課すないことを妨げるものと解してはならない。

6

条約第十六条に関し、一方の締約国の企業が同条1によつて活動から他方の締約国において取得する所得に対しても、当該他方の締約国において同条2に定めるところに従ふ租税を課する」とがである」とが了解される。

permanent establishment; except where the enterprise is a banking institution.

3. With reference to paragraphs 2, 3 and 4 of Article 7 of the Convention, in the case of a resident of Japan who does not claim taxation in Thailand on the basis of the actual net profits of the permanent establishment in Thailand, nothing in the said paragraphs shall preclude Thailand from determining the profits to be attributed to that permanent establishment on the basis of a certain reasonable percentage of the gross receipts of that permanent establishment, provided that the result shall be in accordance with the principles contained in the said Article.

4. With reference to paragraph 3 (b) of Article 10 of the Convention, the term "industrial undertaking" also means any undertaking entitled to the privileges accorded under the laws of Thailand on the promotion of industrial investment.

5. Nothing in the Convention shall be construed as preventing Thailand from imposing tax on the disposal out of Thailand of profits made by a permanent establishment in accordance with Section 70 Bis of the Thai Revenue Code, B.E. 2481 (1938).

6. With reference to Article 16 of the Convention, it is understood that income derived from the provision of activities mentioned in paragraph 1 of the Article in a Contracting State by an enterprise of the other Contracting State may be taxed in the first-mentioned Contracting State in the same manner as prescribed by paragraph 2 of the Article.

7 条約第二十一一条4(a)に關し、同条4(a)(i)に掲げる規定であつて条約の署名の日以後にその内容が修正されたものに対しては、その修正が条約の署名の日に有効ないれらの規定により与えられた特典の範囲を変更しない程度のものである場合に限り、同条4(a)(i)の規定を適用し、同条4(a)(ii)の規定は適用しない」とが了解される。

8 条約第二十六条2の規定にかかわらず、第二十一一条4(a)(i)の規定は、一千九百八十八年一月一日以後に終る各課税年度の所得に關し、適用する。

以上の証拠として、下名は、各自の政府から上記に委任を受けての議定書に署名した。

一千九百九十年四月七日に東京で、英語による本書1通を作成した。

7. With reference to paragraph 4(a) of Article 21 of the Convention, it is understood that any section referred to in sub-paragraph (i) of the said paragraph, as modified after the date of signature of the Convention, is covered by the provisions of the said sub-paragraph and the provisions of sub-paragraph (ii) of the said paragraph do not apply to such modified section, so long as such modification is made only to such an extent that the scope of the benefit accorded by such section as effective on the date of the signature of the Convention is not altered.

8. Notwithstanding the provisions of paragraph 2 of Article 26 of the Convention, the provisions of paragraph 4 (a) (i) of Article 21 shall be applicable as regards income for any taxable year ending on or after the first day of January 1988.

IN WITNESS WHEREOF the undersigned, duly authorized thereto by their respective Governments, have signed this Protocol.

DONE in duplicate at Tokyo on this seventh day of April, 1990 in the English language.

日本国政府のために

中山太郎

タイ政府のために  
シティ・サウエーランマー

For the Government  
of Japan:  
Taro Nakayama

For the Government  
of Thailand:  
Siddhi Savetsila

(参考)

この条約は、我が国とタイの間で所得に対する租税に関する一重課税の回避及び脱税の防止のために締結されたものである。